

北社会ニュース 第43号

2008年5月19日

発行者： 鈴木壮夫

(1) 本日、第262回北社会

講師：和賀井敏夫先生（中42回）

「新生石巻市名誉市民第一号就任に関連して」

先月20日、石巻市民会館で開催された全市民挙げての盛大な合併三周年記念式典の中で和賀井先生は初の石巻市名誉市民に就任されました。石巻市在住の私の同期生・遠藤君から前日の講演会、当日の記念式典を報じた“石巻日日新聞”“石巻かほく”両新聞が届き、後輩として本当に嬉しいとの添え書きがありました。早速両紙を読みました。和賀井先生は「ふるさと石巻は私の心の支え」とお話しになり、且つ「石巻市の発展のためにできることがあれば何でもやりたい」と決意を述べられたというくだりには目頭が熱くなりました。先生は1924年のお生まれです。大正13年です。第8回パリ・オリンピックに日本選手は19人参加、織田幹雄さんが三段跳で陸上初の6位入賞を遂げた年でした。今年、84才になられます。不肖の後輩、私の17年先のご年令です。何が何でもこれからの17年間を自分なりに悔いのない生活をし、大先輩と同じく、元気で社会に貢献できる84才にならねばと強く思っております。しっかりやります。二高生として！本日ご参加の皆さんも和賀井先生を見習って下さい。それが、伝統だと思います。

(2) 来月以降の北社会

6月16日（月）講師：早坂昭夫氏（高11回）

「液晶ディスプレイの夢」

7月17日（木）講師：佐々美喜男氏（高27回）

夏の夕べ、「江戸浄瑠璃の一つ新内節」を楽しみましょう。

(3) 中国・四川省大地震

私が商社の駐在員として北京に3年弱、赴任していたのはほぼ20年前のことです。毎日便箋にその日の出来事を記し、一週間纏めて川越の留守宅に郵送しておりました。妻が「パパの北京からの手紙」というファイルをつくり、綴じていました。5冊のファイルになりました。今回の地震で、ボイラー用鋼板売込で四川省を訪問したことを思い出し、その時の日記を捜し、読みました。1987年6月8日から一週間、成都・自貢・重慶の三都市の需要家を訪問しました。便箋10枚、小学校の子供達にも理解してもらえよう下手な図解もあります。四川省は大きい、面積は57万平方キロという書き出しで始まり、大体タテヨコ750km、750kmは東京～青森との説明も。（日本は38万平方キロ）。竹が多い、パンダの故郷だからとか、四川料理は辛くて口にあわないとか、恐竜博物館を見学したとか、鶏とか家鴨が生きてまま売られているとか、そして、ビルの建築現場。鉄筋が鉛筆のように細く、而も本数が日本に比べ少ない。足場も鉄パイプではなく、竹筒。長江の崖にもアパートが所狭しと建てられていた。復旧は至難のことだと思う。

「共学ほやほや」二高勝利

「バンカラ」一高と野球定期戦



勝利を喜ぶ仙台二高の生徒ら＝仙台市宮城野区のクリネックススタジアム宮城

「杜の都の早慶戦」と呼ばれる仙台一高と仙台二高の野球定期戦が10日、仙台市宮城野区のクリネックススタジアム宮城であった。今年、仙台二高に応援を取り仕切る応援団長らが3年ぶりに登場し、両校の応援合戦にも熱が入った。試合は仙台二高が5-10で勝ち、通算成績は同高の67勝61敗2分けとなった。

バンカラな校風で知られる仙台一高の生徒は、好機になればスタンド中段まで降りて横一列に肩を組み、跳び、叫ぶ元気の良さ。1年の中村正紀君(16)は「やっぱりウチの伝統はすごい。こういうものが出来なくなったら嫌なので、共学化には反対です」。一方、昨年に共学化した仙台二高は、プラスバンドの奏でる音に乗せ、リズムのよい応援を披露。勝ちが決まった試合終了の瞬間は拳を突き上げ、喜びを爆発させた。「皆の愛校心を感じた。二高を選んでよかった」と1年の青葉桜さん(16)はうれしそうに話した。

OB戦の勝敗 (ナイター)

<40才以上> 3回戦ゲーム
二高 9-1 一高
<40才未満> 7回戦ゲーム
二高 5-0 一高

【パレード行進について】

a11niko:00925
にて平成14年度応援団長、千葉佑介氏(高55回)は下記のように意見を述べている。情報が錯綜し、学校側への批判ばかりが配信されている。この一年間現役応援団幹部を指導してきた者として、今回の学校の判断にはそれなりの理由があった。今年も行進は行なわれた。以前は二高-東北大北門-一番町-西公園。今回は二高-西公園と短縮した。理由は現役の応援団幹部が行進の準備をできなかったことだと思う。ここ数年応援団が無かったのでノウハウが途切れていた。しかし学生達が先生方に本気でぶつかり成長していている。行進前日の昼休み校長先生は緊急集会を開催説明、多くの生徒は納得したと。

野球定期戦

二高生行進を断念

仙台市内でエール交換

毎年恒例の仙台一高、仙台二高の硬式野球部定期戦開催を市民に宣伝する一高のパレードが8日、仙台市内で行われた。パレード参加をめぐって学校側と対立していた二高の生徒は、やむなく行進を断念。西公園(青葉区)で二高生を待ち受け、エールを交換した。一高生は予定通り、太鼓を鳴らし、定期戦の開催をPRするプラカード

やのぼりを掲げて市中心部を練り歩いた。西公園で二高生と合流すると、両校の生徒たち約千人が、校歌や応援歌を歌い合って健闘を誓った。パレード参加をめぐっては、三年ぶりの行進を望む二高の生徒たちに対しては、三年ぶりの行進をエールの交換で氣勢を上げる仙台二高の生徒たち。パレードには参加できなかった。8日、仙台市青葉区の西公園

「ずやると確約が取れるよ、交渉を続けたい」と話している。

定期戦はクリネックススタジアム宮城(宮城野区)で10日、開かれる。

